



国際医療リスクマネジメント学会

医療安全臨床コミュニケーター実習研修会2018 (クライシス・コミュニケーション/クライシス・ガバナンス編)

— 事故時の危機対応のあり方 —

主催者の挨拶

医療事故発生時における院内の対応は、クライシス・アセスメント(事故の評価と原因分析)を経て、クライシス・マネジメント(再発防止策の策定)が行われます。それらと共に、クライシス・コミュニケーション(危機対話)ならびにクライシス・ガバナンス(危機対応組織化)も実施します。危機時の不適切な対応が患者・家族のみならず当該医療機関内部の医療従事者に対しても強い悲しみ・怒りを引き起こします。

本プログラムの目的は、医療事故時の円滑な危機対応のためのクライシス・コミュニケーションならびにクライシス・ガバナンスの知識・技術を向上し、医療事故時の際の院内の優れた組織を形成することです。

本実習研修によって、あなたの医療機関により高度な安全文化を構築し、患者・家族からの納得と信頼が得られるようになります。

なお、医療安全文化の向上には、より高度な知識と機能を有する高度医療安全管理者が不可欠です。そこで、日本医療安全学会の協力の下、学会認定「高度医療安全管理者」資格制度が開始されます。本プログラムはこの認定資格取得における必須科目でもあります。

2018年6月

酒井 亮二 (国際医療リスクマネジメント学会理事長)

主催者一同